

「安心・活力・発展プラン2005」中間見直し策定委員会発言要旨
－総合部会－

開催日：平成23年8月23日（火） 10：00～12：00

場 所：トキハ会館5F カトレア

出席委員： 豊田委員 嶋崎委員 高橋委員
溝口委員 西 委員 村上委員
矢野委員 山崎委員 由佐委員

- 子育て満足度日本一の実現を目指すとするが、何をもって子育て満足度日本一になったと言えるのだろうか。計画を立てるだけではなく、日本一を達成したと言えるようにすることが大事。
- 子育て満足度はとても大事なこと。例えば幼稚園や保育所の幼保一元化を実現していくなど、子育ても仕事もしやすい環境づくりというものを具体化していけば、子育て満足度に繋がると思う。
- 大分県の交流人口をいかに増やすかということが重要だと思っている。学びと安らぎ、リフレッシュの大分県というような、人材育成と人が集まる取り組みとして、県外や国外に対して研修の場大分県というコンセプトで企画を立てていったらどうか。例えば海外に研修に行かなくても、大分県に来れば語学研修ができるとか、それに温泉やおいしい食べ物、豊かな自然を味わってもらおうとリピーターが出てくるのではないかと思う。
- 安心、活力、発展という言葉の県民が受け取るイメージは、行政側から見た行動指針という気がする。ブランドというものは自分が作るのではなく周りが作ってくれるもので、一村一品大分県というブランドまだまだ使える。大分県というブランドをもっと外部に向かって広げる意味合いの良い言葉が必要であると考えている。
- 人材育成として子どもを海外に出すことも大事である。海外に行くことで多くのことを学ぶことができ、また逆に自分のふるさとを見直し、知る機会になっている。各地域毎に、身の丈にあった海外派遣が行なえるような組織なり機関、場ができると良いと思う。
- エネルギーの説明では、全て電力に換算したものになっている。バイオマスで熱エネルギーに変えるなどの指標もこの中に入っているが、そういう視点でも調査を行い、バイオマスの取り組みをもっと高めるような運動が必要。
- いくつかの自治体で大分県の特徴を調査し、その地域のエネルギーがどのくらいの役割を担っているかというものを調べてきたが、あまりその結果が広まっていない。電力に換算すると分かりやすいが、エネルギーの直接利用というものの、特に温泉というものは重要なので、直接利用についての記述があればと思う。

- 節電の問題は県のどの組織が担当するのか。節電は経済活動としてはマイナス目標となるが、限りある資源ということで大事な問題。節電を生活のルールとして作っておかないと、いくらエネルギーをたくさん作っても、湯水のごとく使ってしまうては意味がない。
- 子育て満足度を高める一つの視点として男性の育児参加が欠かせない。それを目標とするなら、男性がどれくらい育児に参加しているかというものを指標にしなければいけない。育児休業制度を規定している企業があっても、現実的に男性の育児休業取得はほとんど無いわけだから意味がない。
- 活力の基盤は中小企業であり、そこで働く労働者だと思う。これから労働力人口が減少する中、どれだけ優秀な人材を大分県に止めておくことができるかということが大きな課題である。
- 発展の交通ネットワークの充実と地域交通対策の推進としては、東九州自動車道の早期完成が大きな課題。まだ45%くらいしか供用開始できていない。これを早く完成できるように県としてももっと動くべきではないか。
- 大分市中心市街地の課題として、JRの駅ビル、県立美術館、大分市の駅南複合交流施設が建設される予定。こういうことは200年に一度くらいの大変化だと思う。市内の中心部にLRTを導入するとか、駅前と商店街の行き来がしやすいようにスクランブル交差点にするなど、中心市街地の再構築が必要ではないか。
- 人口問題が言われ始めた時は、人口増加が問題で人口減少を目指そうというものだった。地方のことを考えると人口減少は重要な課題だが、世界的な環境問題などを考えるにあたっては、人口が増加している趨勢をどうするのかという全体的な視点も入れる必要があるのでは。
- 人材育成というものを考えたとき必ずしも青少年期の組織化された教育だけで人材が育成されている訳ではないので、それ以降の教育、学習がとても大事になる。そこで様々なステージでの適切な教育とあるように、学校教育だけに限定するのではなく、もっと別の視点から取り組んでいく必要がある。
- 大分市の中心市街地の開発は、まさに県都200年の計だと思う。駅南の複合施設、駅ビル、トキハを中心とする商業エリア、そしてオアシ・県立美術館の4つの核ができ、それを繋ぐマルチモールという考え方で、いろんな選択ができるような動線を作る必要がある。関係者が協力して、本当の意味の県都大分市としての顔作りを考えていかなければいけない。
- 芸術文化という視点が弱いのではないかと感じる。大分県には仏教文化の国東や久住などの自然の景観が素晴らしい場所がたくさんある。文化や風土をどう作っていくか、見直していくのかということが求められている。県立美術館が大分県から発する芸術文化の象徴になるように期待したい。文化と観光を組み合わせると大分県の魅力がまた増えるのではないかと思う。